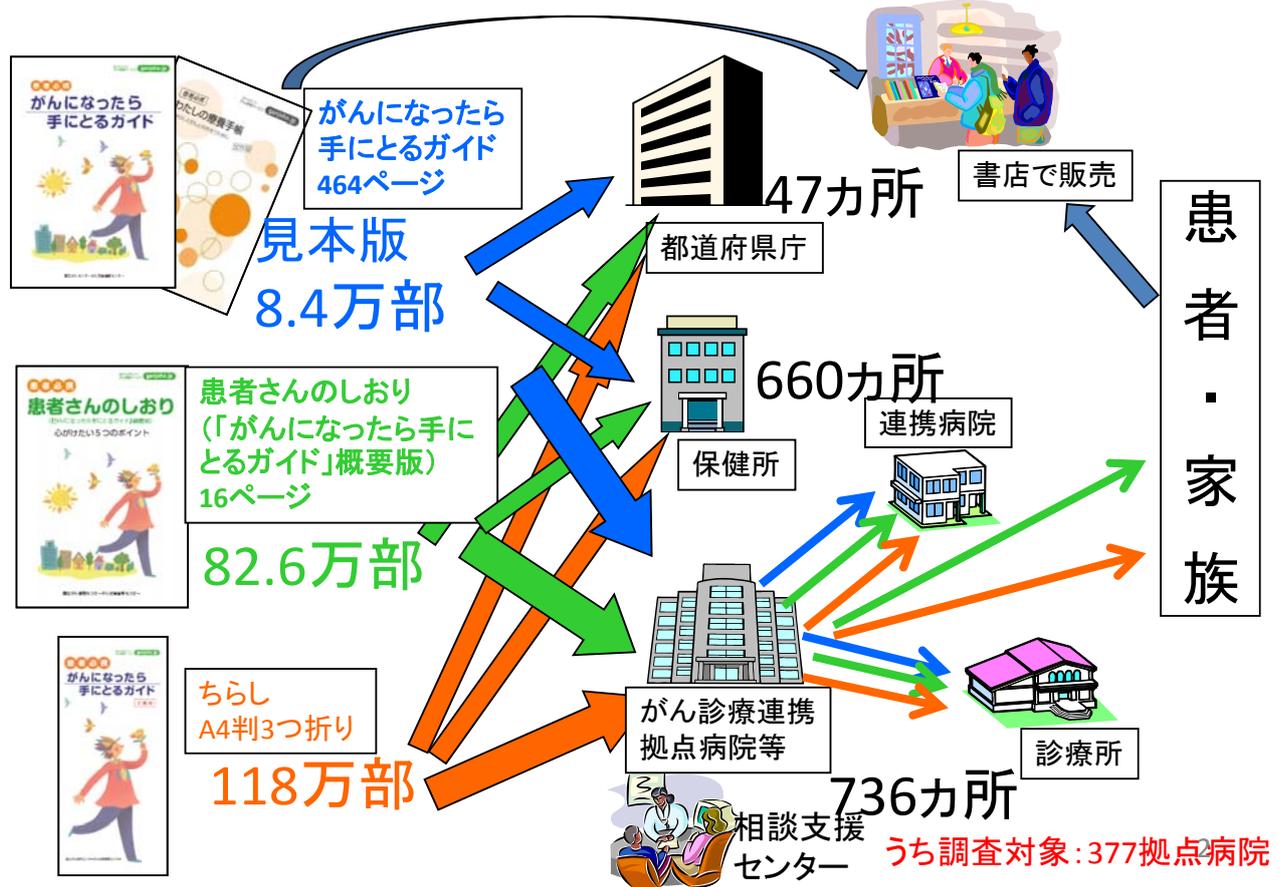


# 患者必携配布・普及事業に関するアンケート調査結果サマリー

国立がん研究センターがん対策情報センター  
がん情報提供研究部

## 患者必携（がん患者が必要な情報を取りまとめた冊子）の作成・配布



# 患者必携の配布、調査方法

## 患者必携の配布

時期：平成23年1月～3月

配布内容：見本版 150～270部

しおり 1500～2500部

ポスター2部＋ちらし2000部



## 調査方法

調査期間：平成23年4月～5月

回答者：377拠点病院の相談支援センターの責任者\*

有効回答数：262施設（回収率70%）

（46都道府県からの回答あり）

\*平成23年度に新たに指定された11施設については本調査の対象外

3

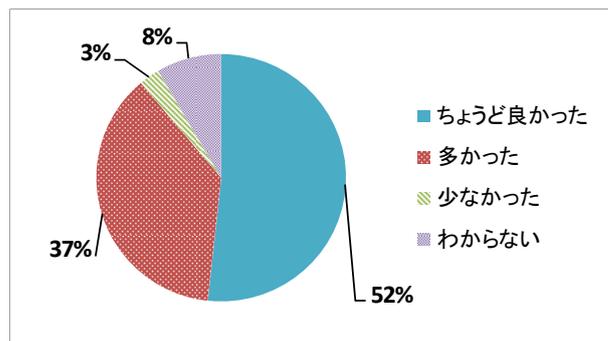
# 調査内容

- 送付方法の適切さ
- 施設内の患者必携の周知・活用状況、患者向け情報提供の状況
- 地域での周知に向けた取り組み状況
- 患者必携等追加の要望の有無
- 今後の患者必携の普及・活用に向けた要望

4

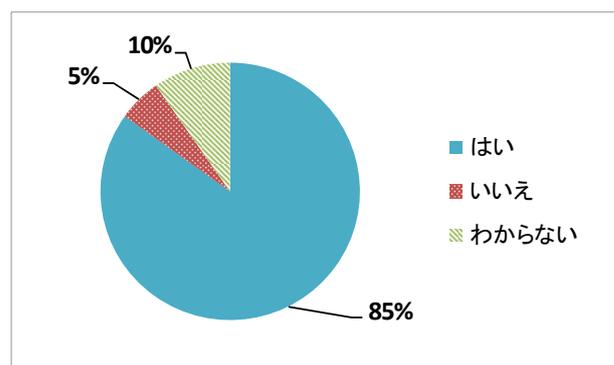
問2:今回お送りした方法について  
2-2. 送付の量(部数)は適切であった。

N=261



問2:今回お送りした方法について  
2-3. 配布・活用方法についての説明は適切であった。

N=259

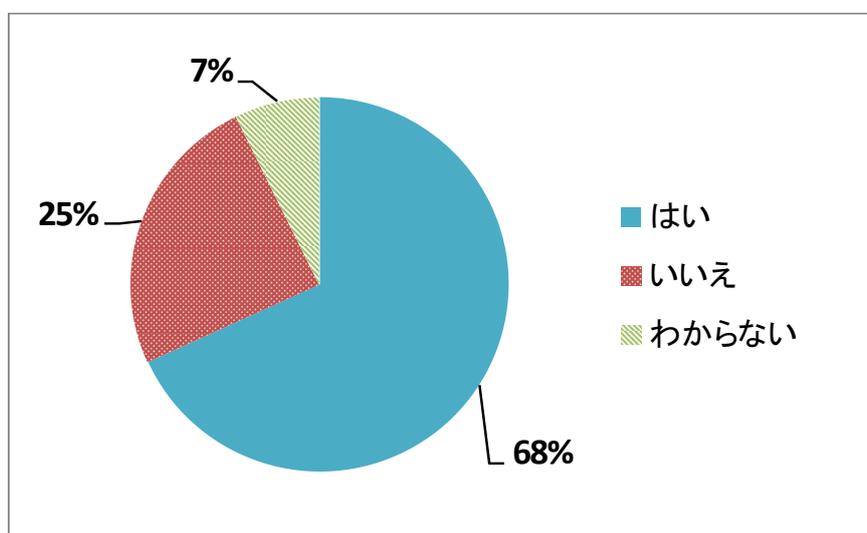


5

問3:患者必携の貴施設内での周知・活用状況について

3-1.

貴施設内の周知について施設内で検討する機会をもちましたか? N=247

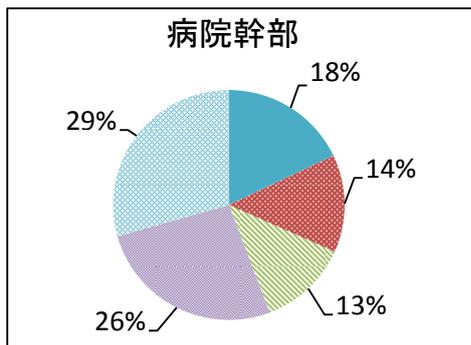
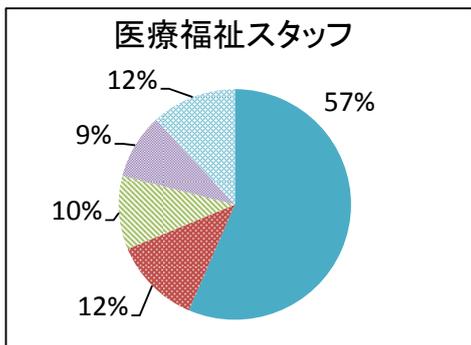
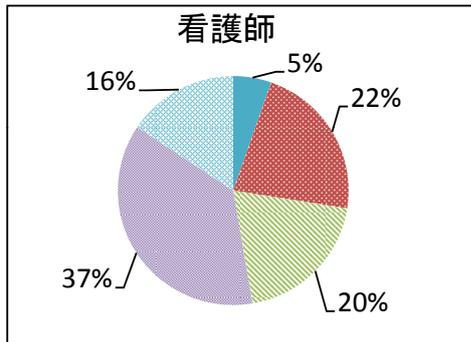
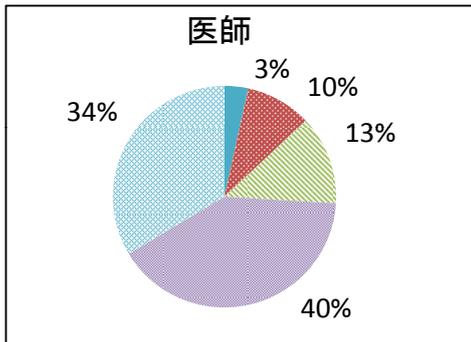


6

### 3-2. <回答施設全体> N=262

職員の皆さんは、「患者必携」のを知っていますか。  
職種ごとの認知度を教えてください。

■ ほとんど知られていない
 ■ 2-3割は知っている
 ■ 5割程は知っている
 ■ 7-8割は知っている
 ■ 全員知っている



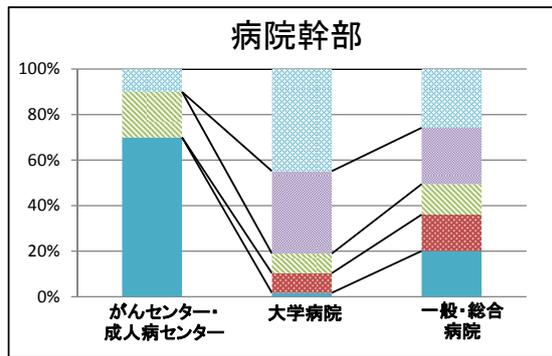
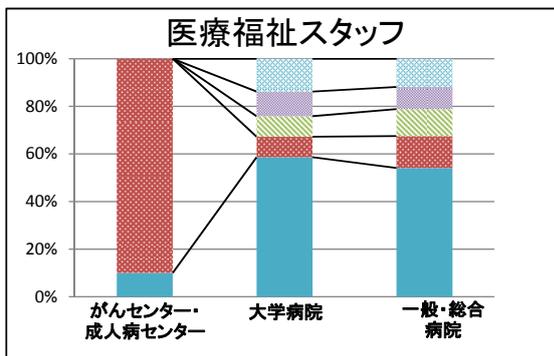
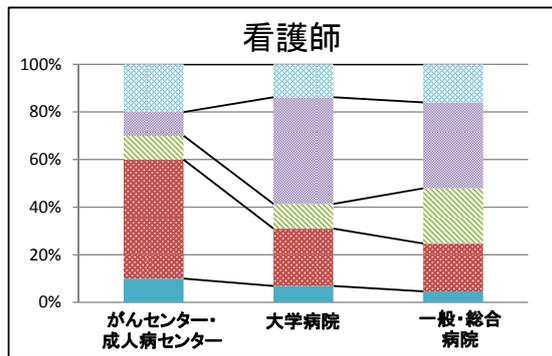
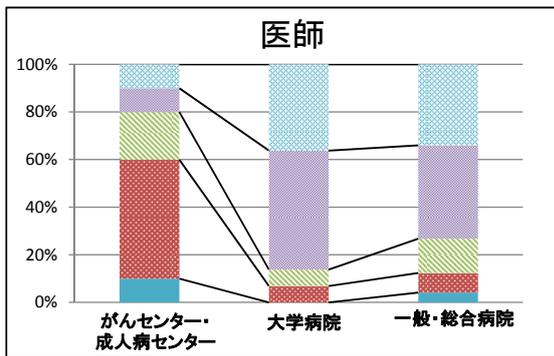
7

### 3-2. <施設属性別>

がんセンター・成人病センター：N=10 / 大学病院：N=58 / 一般・総合病院：N=194

職員の皆さんは、「患者必携」のを知っていますか。  
職種ごとの認知度を教えてください。

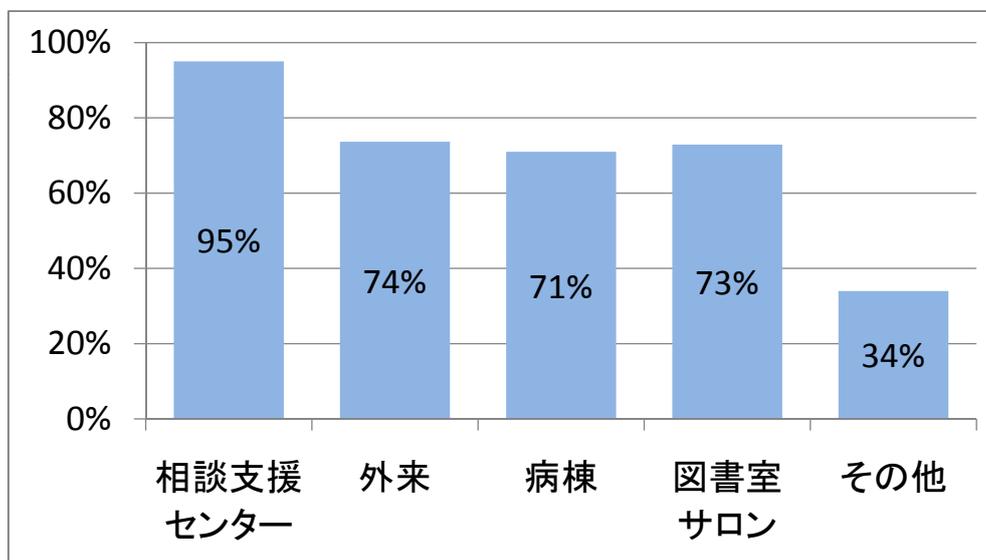
■ ほとんど知られていない
 ■ 2-3割は知っている
 ■ 5割程は知っている
 ■ 7-8割は知っている
 ■ 全員知っている



8

### 問3: 患者必携の貴施設内での周知・活用状況について

#### 3-4. 患者必携を利用している場所(閲覧可能場所も含む) N=262



※「その他」の構成については、概要資料10ページをご参照ください。

9

## 施設内での活用状況(1)

### 院内全体への周知

- 各病棟と各科外来、各部門へ、ご案内のちらし・しおり・見本版を配布 [105]
- 研修会等で説明・配布 [12]
- 院内全職員への一斉メールで配布・普及事業の目的、活用方法、がん情報サービスの紹介などを記載したお知らせ文を発信 [12] など

### 職種ごとの周知

- 医局会で説明配布／全師長への配布／緩和ケア研修会で配布 など

### 相談支援センターでの活用

- 配布用および閲覧用として掲示、配置 [193]
- 患者・家族への説明時に使用 [103]  
必要部分をコピーして配っている／購入希望があった場合は、病院売店を紹介 など
- 患者必携見本版の貸し出し [10] など

[ ]内の数字は該当施設数

10

## 施設内での活用状況(2)

### その他院内での活用

- 外来・病棟で配布用および閲覧用として掲示、配置 [外来193・病棟157]
- 外来・病棟で患者・家族の方への説明時に使用 [外来16・病棟16]
- 化学療法室、地域医療連携室、栄養科、健診センター等関連部署で紹介 [15]
- 院内共用スペースで紹介 [26]
- 図書室、患者情報コーナー等にて閲覧・貸し出し [162]
- 病院内売店で紹介 [18]
- 患者会・患者サロン等の会で紹介 [37]
- 患者・家族向け講演会で紹介 [18] など

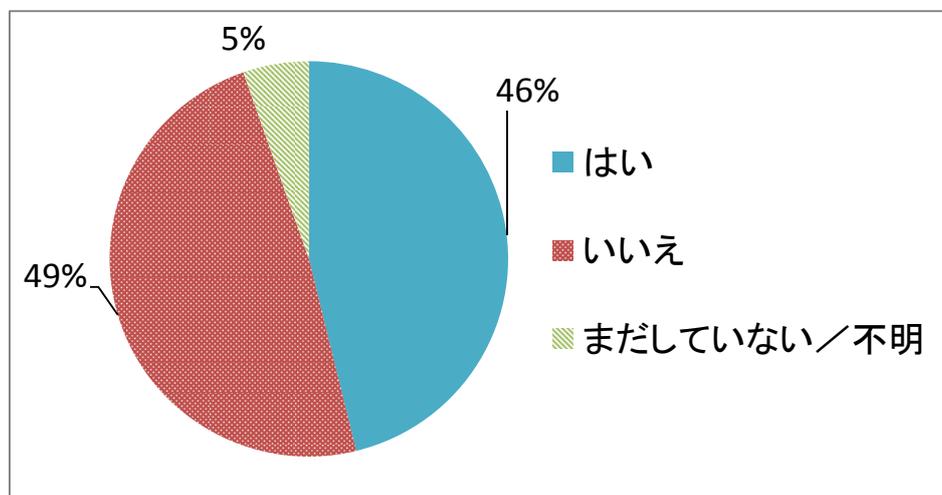
[ ]内の数字は該当施設数

11

### 問4: 地域での周知に向けた取り組みについて

#### 4-1. 地域での周知について検討する機会をもちましたか。

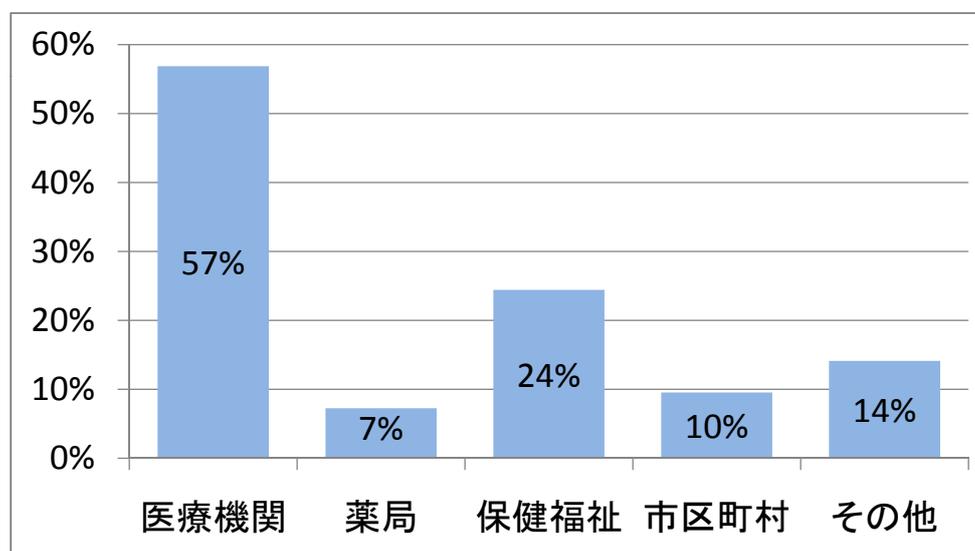
N=262



12

## 問4: 地域での周知に向けた取り組みについて

### 4-2. 周辺地域における患者必携の案内・情報提供先 (医療福祉関係者) N=262



※「その他」の構成については、概要資料12ページをご参照ください。

13

## 地域での活用状況－医療機関

- 地域連携機関へ紹介・配布 [109]
  - 県として各拠点病院から40冊ずつ拠出して、がん連携に手を挙げている施設に1冊ずつ郵送。県がリスト作成、各拠点病院が郵送を担当。
  - がん地域連携パスの連携登録医、地域の訪問看護ステーションすべてに対して、患者必携の目的などの説明文書をつけて、見本版を郵送。
  - 退院時カンファレンスで来院される他病院の担当者に紹介・配布。
- 地域連携等の会議、講演会において紹介・配布 [28]
- 緩和ケア研修会にて紹介・配布 [6]
- 地域医師会を通じて紹介・配布 [4]
- 広報誌を介した紹介 [4]
- 薬剤師連絡会、講演会等での配布 [12]
- 近隣の薬局へ紹介、配布 [11] など

[ ]内の数字は該当施設数

14

# 地域での活用状況

## 行政、保健・福祉施設、一般住民

- 行政機関(保健所等)紹介・配布 [34]
- 地域連携等の会議、講演会において紹介・配布 [24]
- 訪問看護との連携 [12]
  - 保健所、地域包括支援センターに配布、訪問看護ステーションに配布。
- 市区町村担当部署へ紹介・配布 [25]
- コミュニティセンター・図書館等の公共施設に紹介・配布 [8]
- 講演会等において紹介・配布 [10]
- 患者会へ紹介・ちらし配布 [4]
- メディアに紹介・配布 [1]
  - 各新聞社およびNHKに患者必携を送付。

など

[ ]内の数字は該当施設数

## まとめ 患者必携事務局より

- 各施設や地域での取り組みを共有させていただき目的で今回の調査結果をまとめさせていただきました。参考としてお使いいただければ幸いです。
- 患者必携のPDFファイルは引き続き無償でダウンロード、印刷していただくことができます。患者さんの相談の内容によって必要な部分を印刷したり、一部をご紹介いただくなどご活用ください。
- 今後も皆様からご提案いただきながら、現場でより使いやすくなるための内容は提供方法の改善に向けた取り組みも進めて参ります。
- 地域における活用事例や連携の場での活用など、今回いただいたご意見をもとに、さらなる充実に向けて検討してまいります。
- 地域や職種団体ごとの勉強会・研修などでご案内する機会など、幅広くご提案いただければありがたく存じます。

患者必携配布・普及事業に関するアンケート  
調査報告書

概要資料

平成23年7月

- 注1) パート1(5ページ) および パート2(9ページ) の2部構成となります  
注2) パート2で項目の題目の右に示した[数字]は、該当項目につき同様のご回答をいただいた施設の数を表しています

## 1. 患者必携配布・普及事業に関するアンケート 調査報告書 概要資料について

国立がん研究センターがん対策情報センターでは、「がん対策推進基本計画」にのっとり、がん患者とご家族の方々の不安を解消するために、平成 22 年度に患者必携「がんになったら手にとるガイド」を作成し、PDF 版を公開しました。平成 23 年 1 月以降、同見本版、「患者さんのしおり(患者必携『がんになったら手にとるガイド』概要版)」、およびそれらを活用していただくための紹介・活用支援ツール(ポスター・ちらしなど)を、全国のがん診療連携拠点病院の皆さまに普及・活用についてのご協力依頼とともに送付させていただきました。

当センターでは、患者必携をはじめ、がんに関する情報を広くお届けし、活用していただくための取り組みを行っておりますが、このたび相談支援センターをはじめ、がん診療連携拠点病院の関係者の皆さまによる患者必携の普及・活用状況についてお伺いする調査を実施いたしました。この資料は、ご回答いただいた施設での院内および地域における情報の普及や、活用に向けたさまざまな工夫や取り組みについて調査結果をまとめたものです。本調査結果が、今後の院内・地域におけるがん情報の普及や活用に向けた取り組みにおいてお役に立てば幸いです。あらためて皆さまのご協力に感謝申し上げます。

今後も、当センターではさまざまなご意見ご提案をいただきながら、情報づくりや普及・活用に向けた取り組みにつなげてまいりたいと考えております。

## 2. 患者必携の配布および本調査の概要

### ① 配布方法

平成 23 年 1 月から 3 月に、がん診療連携拠点病院宛てに、国立がん研究センターから患者必携「がんになったら手にとるガイド」見本版および「患者さんのしおり(患者必携『がんになったら手にとるガイド』概要版)」、紹介・活用支援ツール(ポスター・ちらしなど)等を送付させていただきました。1 施設あたりの送付部数は見本版 150～270 冊、しおり 1500～2500 部、ポスター 2 セット(1 セットあたり、ポスター 1 枚、ちらし 2000 枚)です(部数は医療機関の規模による)。

### ② 調査方法

平成 23 年 4 月に、各がん診療連携拠点病院の相談支援センター宛てに本調査の協力依頼を行い、相談支援センターの責任者の方、またはそれに準ずる立場の方に FAX またはメールにてご回答いただきました(締め切り 4 月 28 日、5 月中旬まで集計)。

主な調査項目は以下の通りです。

- ・送付方法の適切さ(送り先、部数、配布・活用方法の説明)
- ・施設内の患者必携の周知・活用状況、患者向け情報提供の状況
- ・地域での周知に向けた取り組み状況
- ・患者必携等追加の要望の有無
- ・今後の患者必携の普及・活用に向けた要望

### ③ 回答施設属性

調査は、全国 377(\*)施設のがん診療連携拠点病院の相談支援センターの皆さまに協力をお願いしており、有効回答数は 262 施設(母数に対して約 70%の回答率)でした。47 都道府県中 46 都道府県の施設より回答をいただきました。

\*平成 23 年度に新たになんがん診療連携拠点病院に指定された施設は患者必携の案内時期が異なるため、本調査の対象外とした。

病院属性	回答結果		
	回答施設数 ( )内は対象施設数	当該属性内での 回答率	回答に 占める割合
がんセンター 成人病センター	10 (19)	52.6%	3.8%
大学病院	58 (82)	70.7%	22.1%
一般・総合病院	194 (276)	51.5%	74.0%
合計	262 (377)	69.5%	100.0

### 3. 調査結果の概要

#### ・送付方法の適切さ(送り先、部数、配布・活用方法の説明)

ほぼすべての施設で相談支援センターにお届けすることができ、送り先について「適切であった」との回答でした。送付部数については半数が「ちょうど良かった」との回答でしたが、4割近くが「多かった」との回答であり、活用方法について好事例の共有をはかりたいと考えているとの回答がありました。(問1,2)

#### ・施設内の患者必携の周知・活用状況、患者向け情報提供の状況

院内での周知については、7割以上の施設で「検討する機会をもった」と回答されましたが、医師、看護師、病院幹部が「5割以上知っている」と答えた施設は過半数を超えた程度にとどまり、調査時点においては院内周知についても道半ばである様子が見られました。地域での周知については、「検討する機会をもった」と答えた施設が約半数であり、こちらも先進事例を共有させていただくことで、今後のより積極的な活用につながることを期待される結果でした。(問3, 4)

院内での具体的な活用事例については本資料 p7～10 に示しています。多くの施設で病棟、診療科等への配布を行っていただきましたが、そのほか全職員への一斉メール、研修会等での活用、病院の発行する新聞等での周知、がん診療にかかわる医師に直接配布する、がん専門看護師や認定看護師を通じた活用など、個々の特色ある取り組みがありました。相談支援センターでの活用方法としては、7割以上の施設で閲覧用として準備していただいているほか、4割の施設では患者さんやご家族への説明時に直接見せたり、必要部分をコピーするなど、積極的な活用がなされており、患者必携を使った勉強会を実施したという報告もありました。そのほか、多くの施設で病棟、外来、患者図書室等で閲覧用としてご活用いただいています。

#### ・地域での周知に向けた取り組み状況

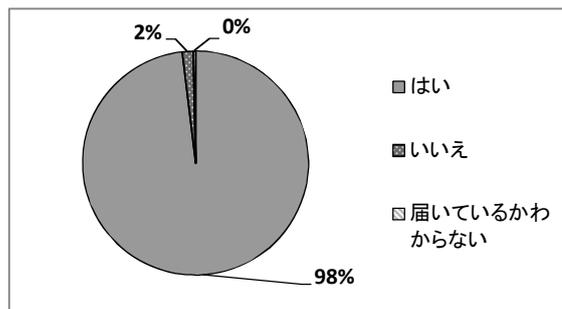
地域での紹介・配布事例については、P11～12 に掲載しています。保健所や市区町村をはじめとする行政機関への提供、紹介、地域連携の会議や訪問看護ステーションとの連携における活用、講演会での紹介やメディアを介した紹介などの取り組みを報告していただいています。

#### ・今後の患者必携の普及・活用に向けた要望

患者必携の普及・活用に向けたアイデアとして、院内で広く紹介する具体的な方法、手に取りやすい方法の工夫などの具体例もお寄せいただきました。また、取り組みの難しさも多数お寄せいただきましたので、患者必携事務局からのコメントとあわせて共有させていただきます(p13～15)。

## 4. 調査結果

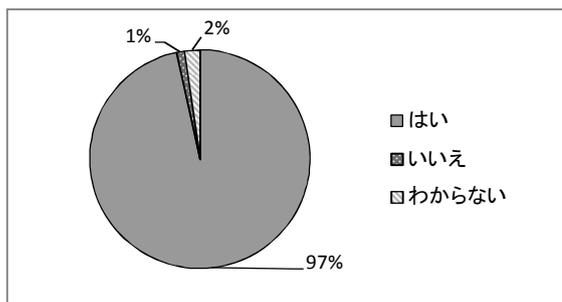
問1: 患者必携「がんになったら手にとるガイド」(見本版)  
(1月末国立がん研究センターより発送)と、「患者さんのしおり」(同概要版)、ちらし、ポスター(2月末発送)は相談支援センターまで届きましたか?  
[N=262]



問2: 今回お送りした方法についてお尋ねします。

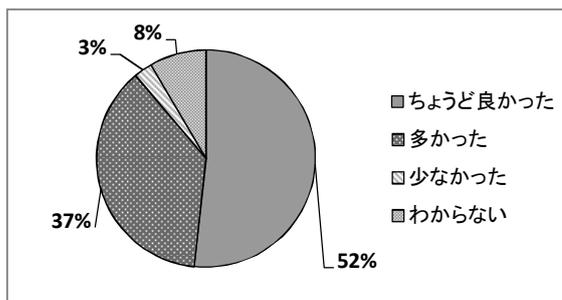
2-1. 送り先は適切であった。

[N=261]



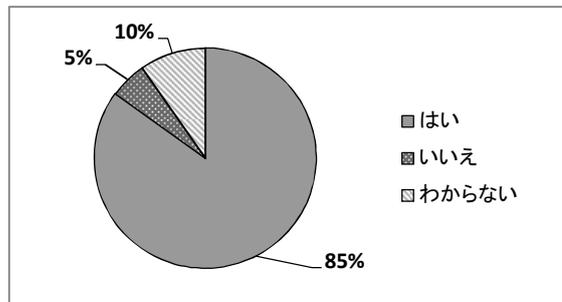
2-2. 送付の量(部数)は適切であった。

[N=261]



2-3. 配布・活用方法についての説明は適切であった。

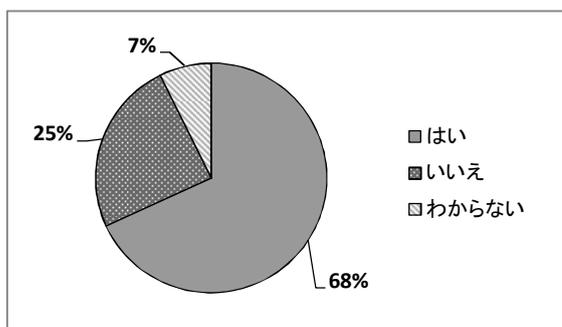
[N=259]



問3: 患者必携の貴施設内での周知・活用状況についてお尋ねします。

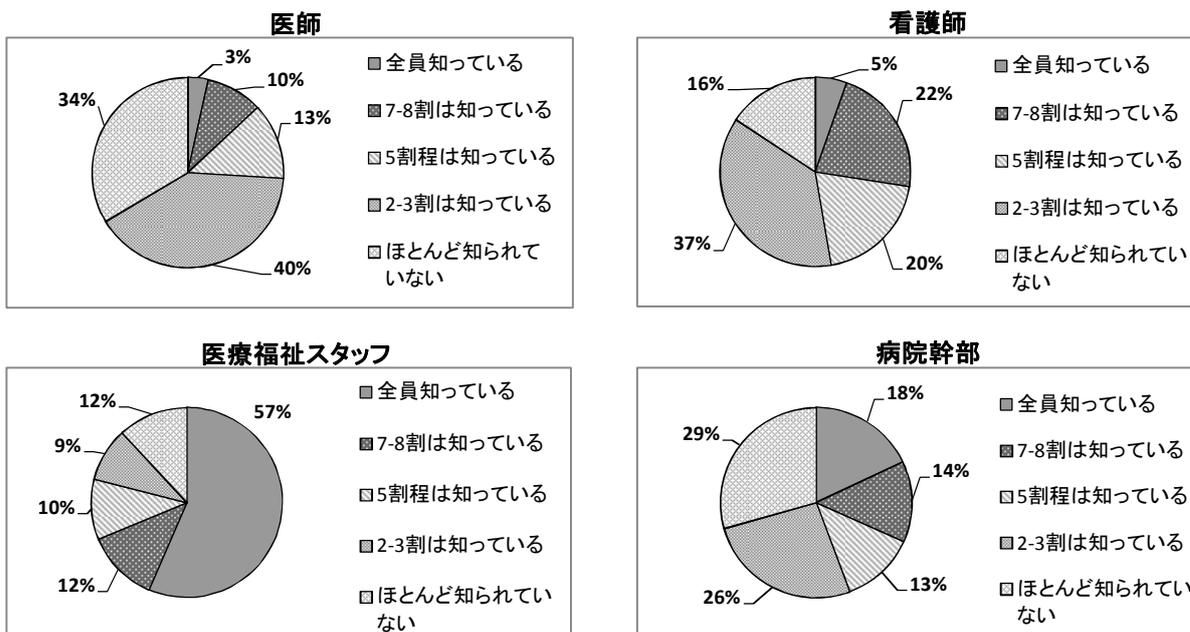
3-1. 貴施設内の周知について施設内で検討する機会をもちましたか。

[N=247]



3-2. 職員の皆さんは、「患者必携」のことを知っていますか。職種ごとのだいたいの認知度を教えてください。

<回答施設全体> [N=262]



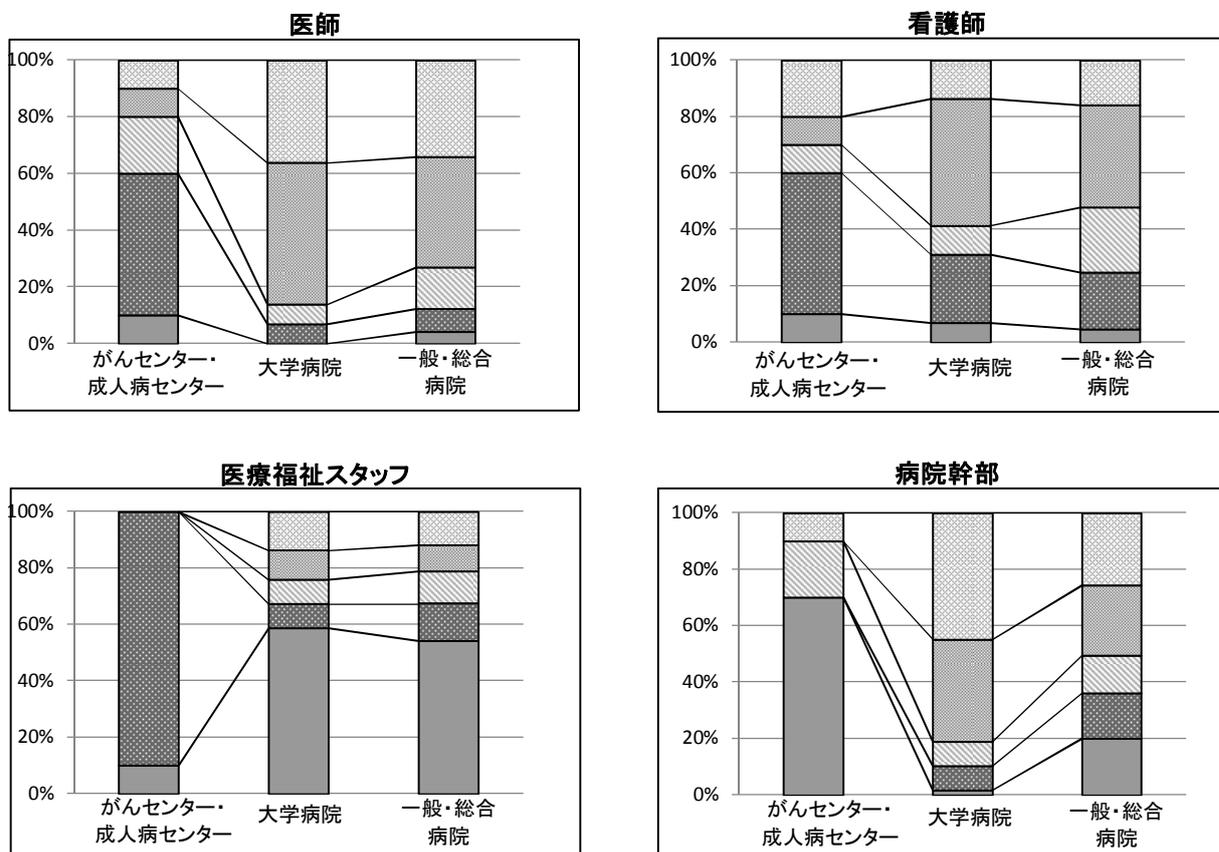
<施設属性別>

がんセンター・成人病センター [N=10]

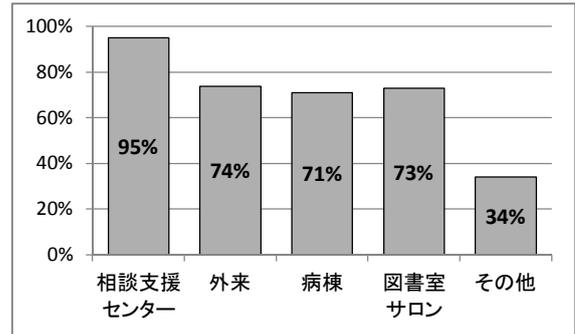
大学病院 [N=58]

一般・総合病院 [N=194]

□ ほとんど知られていない ■ 2-3割は知っている □ 5割程は知っている ■ 7-8割は知っている ■ 全員知っている



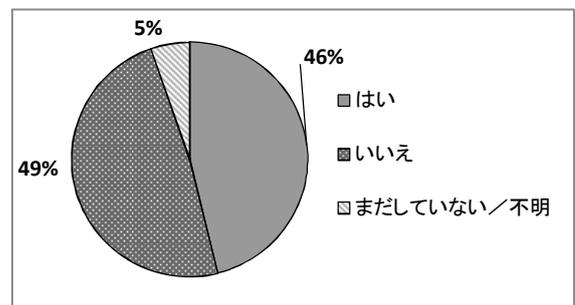
3-4. 患者必携を利用している場所(閲覧可能場所も含む)  
[N=262]



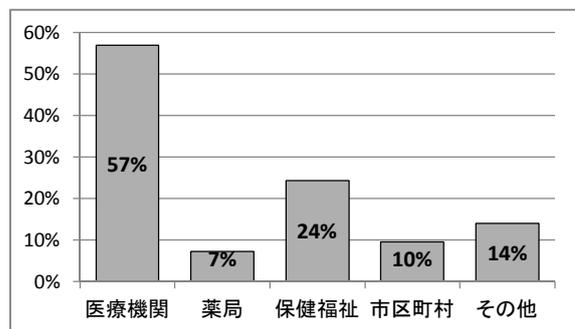
「その他」の構成については、  
概要資料10ページをご参照ください。

問4: 地域での周知に向けた取り組みについてお伺いします。(調査時点)

4-1. 地域での周知について検討する機会をもちましたか。  
[N=262]



4-2. 周辺地域における患者必携の案内・情報提供先  
(医療福祉関係者)  
[N=262]



「その他」の構成については、  
概要資料12ページをご参照ください。

問3：患者必携の貴施設内での周知・活用状況についてお伺いします。

3-3：職員向けの周知方法で、具体的な取り組みがありましたら教えてください。

## 1) 全体への周知方法

**各病棟と各科外来、各部門へ、ご案内のちらし・しおりと一緒に見本版を数冊ずつ配布 [105]**

がん患者関連の病棟、外来、放射線科、リハビリ科、レントゲン室、化学療法室、各診療科受付、医局、薬剤部、臨床検査部、検査部門待合室、在宅推進室、相談支援センター、総合医療相談部、看護外来、看護学校、事務部門、栄養課、食堂、職員休憩室、保健管理室、洗濯室、外注職員など。

**研修会等で説明・配布 [12]**

緩和ケア研修会・緩和ケア勉強会で周知、配布した。／医療従事者研修会(当地域の職員対象)で案内。／院内職員研修会にて、見本版の紹介をした。／看護師の勉強会、看護職員教育の資料として活用。／学生指導時に利用している。病院長による必修の研修会とした院内職員向け研修会を開催し、説明資料(患者さんのしおり・3つ折りリーフレット)を配布した。／がんプロフェッショナル養成プランでの講義などで提示し周知。／地域に対して行っている研修会(院内の科長クラス以上は参加必須)で、国立がん研究センターがん対策情報センターの職員から案内をしてもらえるようにプログラムを設定した。

**院内全職員への一斉メールで配布・普及事業の目的、活用方法、がん情報サービスの紹介などを記載したお知らせ文を発信 [12]**

病院長から全職員宛てにメール発信した。／がん相談支援センター便り。

**国立がん研究センターがん対策情報センターのウェブサイト「がん情報サービス」を紹介・PDFダウンロード方法を周知 [11]**

**職員用図書室で紹介 [4]**

**院内発行の新聞に案内を掲載 [4]**

院内新聞、緩和ケアニュース、職員図書新刊案内

**がん相談、各外来、各病棟にポスターを掲示、ボードの冊子ポケットにしおりとガイドを設置 [4]**

独自にチラシや紹介文を作成し、院内に掲示した。

**病院内売店で販売 [2]**

**国立がん研究センターがん対策情報センターより講師を招き、市民向け公開講演会を開催。 [1]**

**配布後の利用状況を把握するためのアンケートを実施 [1]**

全職員向けの説明会を行った。

**電子カルテ画面、職員向け電子掲示板、ホームページで紹介 [1]**

## 2) 職種ごとの周知方法

**医師への周知 [23]**

全医師に配布。／医局会にて説明配布。／がん診療に関わる医師・病棟に配布した。／幹部職員・各部署に配分数をとりきめ配布した後、残部をがん対応が多く、かつ個別持ちを希望する医師に配布できる旨、全館メールにて再度周知をはかり、申し出た医師に配布した。

**看護師への周知 [21]**

全師長に配布。／師長会にて周知を図り、各部署に見本・ちらし・しおりを配布。／看護部へ配布。／各病棟や緩和ケア、化学療法専従看護師へ周知し配布を行った。／各病棟のがん看護リンクナース、がん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師にも配布し、活用してもらっている。／緩和ケアリンクナースを通じて、部署への周知をはかった。／希望者に配布。

**院内スタッフへの周知 [19]**

がん相談支援センター相談員、院内がん相談担当者に配布し、活用を促した。／役職者、幹部全員に配布した。／薬剤師、栄養士に配布。／医療福祉スタッフへ回覧を行った。／検査・リハビリ科・薬剤部各部署に職員閲覧用として見本版の配布と資料配布を行った。

**緩和ケアチームへの周知 [4]**

緩和ケアチームメンバーに1冊ずつ、しおりと共に配布した。／緩和ケア研修会で配布した。

**窓口担当者 [1]**

委託業者に対して、説明用資料配布と説明を行った。

問3 : 患者必携の貴施設内での周知・活用状況についてお伺いします。

3-4: 来院された患者さんやご家族への情報提供状況について伺います。以下の場所での、患者必携に含まれる情報の利用状況について教えてください。利用している場合は、その具体的な内容について教えてください。

#### 1) 相談支援センター

##### 配布用および閲覧用として掲示、配置 [193]

入口にポスター掲示。見本版を閲覧用に配置。相談支援センター入口前と面談室に、チラシ・しおりを配布用に配置。

相談支援センターのカウンターに「患者必携・見本」を閲覧用に、概要版を配布用として設置。

相談室前のパンフレットを置く棚に、案内(しおり)を配置。

患者会で希望者に配布しています。

ポスターを貼り、しおりを配布用に設置した。当院の売店で購入できる旨を表示した。

相談室のテーブルに展示し、状況に応じて相談対応に活用。購入希望があった場合は、病院売店を紹介している。

がん相談支援センター前に、必要部分をコピーして提示。

閲覧している患者家族には がん相談が声をかけるようにしている。

がん相談支援室横の患者家族の動線となる廊下の掲示板にポスターとちらしを設置した。

地域の患者会や団体からがん相談・緩和に関する資料提供を求められたい際に紹介している。

相談室の掲示板にポスターを貼りだし、見本展示、療養手帳をA4に拡大し本棚に配置し、必要時配布。

患者向け講演会で資料としてちらしを配布。がん患者とその家族を対象にしたがん学習会で紹介。

がんシリーズの冊子を渡すとき、本の紹介をしている。乳がん患者会の会長に見本版を差し上げたともよい本と喜んで頂き、他の人に紹介すると言われた。3月の乳がん患者会総会のとき、概要版としおりを渡してもらい、普及のための協力を得た。図書室にポスターを貼った。

##### 患者・家族への説明時に使用 [103]

患者さんやご家族への説明の際に利用している。必要部分をコピーして配っている。

患者会で希望者に配布しています。

相談に来た家族に情報提供の一つとして紹介している。

状況に応じて相談対応に活用。購入希望があった場合は、病院売店を紹介している。

患者との面接のしおりを配布している。

相談内容に応じて紹介するようにしている。患者さんへの説明に利用するようにしている。しおりをがん冊子の近くに配布用として設置した。

患者さんに治療にかかる費用の説明、用語の解説のときに利用している。相談支援窓口においている。

必要時に案内。それぞれに既存の資料で対応していることもある。しおりは、診断されたばかりの患者に渡すこともある。

相談員全員が所持、相談時に活用。

閲覧している患者家族には がん相談員が声をかけるようにしている。

本を要約して患者さんにポイントを提供。

告知間もない方には説明し、貸し出しを行った。

基本的な、がんに関する知識不足が原因で悩んでいらっしゃる場合が多く、社会資源や経済的部分を紹介時に利用。

見本を相談室の個室に配置している。

##### 患者必携見本版の貸し出し [10]

見本版に関しては、希望があれば貸し出し対応もしている。

がん患者・家族「集いの場」で紹介(問い合わせが十数名よりあり、見本版を貸し出した)。

告知間もない方には説明し、貸し出しを行った。

相談室内での閲覧や入院患者への貸し出しを行っている。

##### スタッフ内で利用 [7]

相談員の知識向上のために活用している。

他の福祉スタッフにも共有を図った。各部署に本を配布。

センター長、ワーカーともに勉強会を実施した。

## 2) 外来

### 配布用および閲覧用として掲示、配置 [193]

外来診療科待合ブースに閲覧用として設置、希望者に配布。

外来の待ち時間を利用して自由に閲覧できるように待合図書コーナーに設置。

化学療法室内に数冊常備。治療の時間の間に希望あれば貸し出している。

外来待合ホール、受付カウンターにちらし・しおりを置いている。

「しおり」をEVホールに配布用に設置。ポスターを貼付。

外来ロビーにポスターを貼った。しおりを配布用スタンドに配置。外来診察棟や各階の閲覧図書ボックスに配置。

会計窓口の後方にあるロビーにポスターとチラシを設置した。しおりとちらしは、外来化学療法室、放射線治療室にも設置し自由に持ち帰ることができるようにした(がん高度先進治療センター外来窓口にも設置予定)。また、見本版を各病棟の食堂に閲覧用として配置した。

外来通路冊子立て、配布用棚に、しおり・ちらしを設置した。

病院の入り口や再来受付機のところにポスターを貼った。

専用棚を設置し、提供予定。

外来図書室への設置。

### 患者・家族の方への説明時に使用 [16]

医師・看護師が患者説明時に利用できるよう患者必携本を職員用に配置した。

告知患者にパンフレット提供。

外来看護師が、資料として患者へ提示できるよう配置した。

患者さんに用語の解説のときに利用している。

がん患者を診察する医師の診察室におき、必要時利用したり、手渡ししてもらっている。

外来にて主治医より配布予定。新規にがんと診断された患者には「患者さんのしおり」「地域療養情報」を配布。すでにごんと診断されている患者には、手にとるガイドと地域療養情報のチラシを配布し、希望者には相談室にて地域療養情報を配布する。

### 各部署へ配布 [11]

各科外来にいきわたるように配布し、活用してもらう。

看護相談、地域医療連携室に配布。

見本版を各診療科の医局に配布した。

化学療法室など関連部署へ配布。外来、CTMR室、入院案内。

診療科から配布の依頼、患者からの「患者さんのしおり」の入手の希望があればがん相談支援室を案内する。

### 患者必携「がんになったら手にとるガイド」見本版の貸し出し [2]

化学療法室内に数冊常備。治療の時間の間に希望あれば貸し出している。

### スタッフ内で利用 [2]

がん支援相談員が利用し、勉強会で使っている。

外科:スタッフ用として活用している。内科:外来の中待合に置き、自由に読んでもらっている。1冊は持ち帰られた。またスタッフ用として活用している。

## 3) 病棟

### 配布用および閲覧用として掲示、配置 [157]

ご案内のちらしとしおりを配布用に病棟ラウンジに設置した。一緒に見本版1冊を見本として設置した。

各病棟に見本を配布。ちらし・しおりはナースステーション、インフォメーションコーナーに置いている。

院内独自で作成したチラシを掲示して情報提供をした。

各病棟デイルーム(患者・家族の集まる場所)に、見本版を閲覧用として設置、しおりを配布用として設置。

「しおり」をEVホールに配布用に設置。

見本版の本は患者食堂に閲覧専用として設置。

各病棟のデイルームのしおり立ての中に入れてある。補充に回っているがよくなっていく(利用されている)。

各病棟、ICU、OP待合室にしおりと見本を設置。

面会ルームに設置し、利用してもらっている。

### 患者・家族の方への説明時に使用 [20]

がん診断の告知があった患者の全例にパンフレット提供している。

各病棟で医師、看護師が患者へ説明の際の情報提供等に使用している。

患者さんに用語の解説のときに利用している。

患者へのオリエンテーション等の情報源として参照。

今後配布し、入院患者の指導に活用する予定。

1冊ずつ配布し、職員から患者・家族へ紹介。

診療科から配布の依頼、患者からの「患者さんのしおり」の入手の希望があればがん相談支援室を案内する。

各部署の看護師に、患者さんからの問い合わせには、「相談支援センター」が対応すると伝えてもらうようにしている。

### 各部署へ配布 [11]

各病棟へ配布して、活用してもらう。

がん患者のいる部署への配布。

各病棟の看護師長に配布。

### スタッフ内での利用 [6]

がん看護リンクナース、スタッフ用、師長用として配布した。

病棟内勉強会に利用。

血液内科病棟:スタッフ用として活用している。とてもよい本と思う。外科病棟:スタッフの学習用として各自が読んでいる。

#### 4) 患者向け図書室/患者サロン等

##### 図書室、患者情報コーナー等にて閲覧・貸し出し [162]

図書室、透析待合室に置いている。  
患者必携を持ち出し禁として設置。患者さんのしおり、ちらしは持ち帰り自由。ポスターの貼布。  
患者交流スペースに見本を設置した。  
患者向け情報冊子コーナーにポスターを貼り、ちらし、しおりを並べた。見本版を閲覧用として配置した。  
患者図書室へ「見本版」を閲覧用として配架した。患者図書室内のパンフレットコーナーへ「しおり」を配架した。  
各フロアの患者用デイルームに閲覧用として配置。

##### 患者会・患者サロン等の会で紹介 [37]

患者教室に参考資料として一部の文章を抜粋して使用した。  
月1回の患者さん、ご家族対象のティータイムに見本を見ていただいた。  
サロンでは話題の提供書類として活用している。また、5月に完成する患者図書室にも配置し、興味のある利用者への配布を促す。  
サロンに参加した患者・家族(ピアサポーターさん)に配布した。  
患者会代表に紹介。移動図書で病室に持参し紹介。  
患者サロン開催時に「患者必携」の案内を行っている。その際に、患者様・ご家族に「しおり」をお渡ししている。

#### 5) その他

##### 院内共用スペースで紹介 [26]

外来のエスカレーター前のフリースペース、公衆電話・携帯電話使用コーナーに、概要版とチラシを設置して配布。  
外来の会計窓口付近の情報提供ブースにポスターを貼った。  
総合案内(インフォメーション)にちらしを配布用として配置している。  
掲示板にポスターを貼り、ポスターのポケットにしおりを入れ、相談窓口閲覧用として置いてあることを情報提供している。  
院内移動図書に閲覧用として設置した。

##### 病院内売店で紹介 [18]

院内売店にポスター(書籍に添付されたもの)を貼り、書籍を販売しており、見本版を閲覧用として配置した。  
院内売店の書店に依頼し、販売用書籍コーナーで販売を依頼した。  
病院売店に書籍設置を申し入れ、設置していただいた。エントランスホールのパンフレットラックに「しおり」、「ちらし」を設置。書籍について「患者図書・相談支援センターで閲覧できます」、「病院売店で購入できます」のビラを設置した。

##### 患者・家族向け講演会で紹介 [18]

患者家族向け講演会でプレゼンテーションした。  
市民公開講座で紹介するとともに、会議内で見本を展示し、周知を図る。しおり、チラシ配布。  
病院主催の市民健康講座の参加者にしおりとチラシを配布した。  
月1回定期開催しているがんセミナーの今年度はテキストとして使用。6回に分けて、患者・家族向けのセミナーとして開催することとした。

##### 化学療法室、地域医療連携室、栄養科、健診センター等関連部署で紹介 [15]

見本版を外来化学療法室のベッドに1冊ずつ閲覧用として配置した。  
地域医療連携室にて、退院支援を行う患者の家族に貸し出すため、患者必携本を配置した。  
関連部署(栄養部、事務(入退院支援室)、リハビリ室等)にも見本版を設置した。  
当院内にある健診センターへ見本版を閲覧用として配置した。

##### 院内スタッフへ広く紹介 [11]

薬剤科、栄養科、用度課、事務部門等、院内すべての部署に配置し、活用を依頼している。(事務部門は知人、近所の人からの相談にのれるように)  
医事課スタッフなどの希望者に配布。  
医師、看護師、ワーカー等の勉強会で使用。薬局、放射線技師、エコー等患者さんにかかわる技師に内容説明し利用依頼。  
認定看護師に1部ずつ配り、活用してもらっている。

##### 患者会へ紹介 [9]

がんサロンの参加者よりの紹介・口コミで知り希望者あり。  
がん患者会で患者必携見本を展示している。

問4: 地域での周知に向けた取り組みについてお伺いします。

4-2 貴施設より、周辺地域の医療福祉関係者に対して、患者必携を紹介したり、配布・普及について連絡を取っていますか。すでに「患者必携」について何らかの連絡を取っている場合には、その具体的な内容について教えてください。

## 1) 医療機関

### 地域連携機関へ紹介・配布 [109]

見本版を近隣医療機関 119カ所に郵送した。

他院MSW、地域医療連携室などと会う機会ごとに謹呈している。

かかりつけ医からの紹介があった診療機関に、予約案内とともに、各種がん冊子、患者必携を同封。PDFファイルを添えて郵送した。

5大がん地域医療連携パスに登録された医療施設にご案内のちらしとしおりを送った。一部病院施設には見本版も一緒に送った。

がん地域連携パスの連携登録医、地域の訪問看護ステーションすべてに対して、患者必携の目的などを書いた説明文書をつけて、見本版を郵送。

県として各拠点病院から40冊ずつ拠出して、がん連携に手を挙げている施設に1冊ずつ郵送した。ただし、県はリスト作成し、郵送は各拠点病院から行った。

退院時カンファレンスで来院される他病院の担当者へ、患者必携の見本について紹介と配布をし、日々の診療などに活用していただけるようお願いしている。

がん診療統括コーディネーターが地域の医療機関・訪問看護ステーション・看護協会を訪問する際に持参し、趣意書と一緒に活用をお願いし、配布している。

冊子の活用方法を文面に起こし、ちらしと本と一緒に活用依頼。がんパス利用の委員、訪問看護ステーション、がんターミナル対応の医院や麻薬取り扱いの医師にも活用依頼しました。

### 地域連携等の会議、講演会において紹介・配布 [28]

地域のがん連携に関する会議の際に配布。

研究会やフォーラムに参加していただいた方へ配布しました。

地域の懇談会時に、病院関係者や訪問看護師に見本版を配布した。

県がん診療連携拠点病院協議会で「患者必携 がんになったら手にとるガイド」を説明し、協議会参加者に配布した。

医療者対象の講演会(院内外120名の参加があった)で、作成の経緯と活用を説明し、院外の医療機関からの参加者に配布した。

### 二次医療圏を通じて紹介・配布 [12]

圏域内のがん診療連携拠点病院と連絡を取り配布方法を検討し、各連携医療機関に配布した。

予定として、二次医療圏の病院、当院の登録医へ、利用のしかたについての説明文書付けて「患者さんのしおり」を送付。

二次医療圏内の病院、医師会、訪問看護ステーション、がん連携パス登録医療機関へ「見本版」、「しおり」、「ちらし」を概要案内を添えて配布。

### 緩和ケア研修会にて紹介・配布 [6]

緩和ケアチームセミナーや地域向けの研修会で配布。

緩和ケアで地域連携している施設に、定例会の際、見本版、しおり、チラシを配布した。

### 地域医師会を通じて紹介・配布 [4]

医師会を通して、配布。

地域、約170の医療機関への必携見本版の設置をお願いするため、各医師会へ本を持参または郵送し、配布を依頼した。

### 広報誌を介した紹介 [4]

病院ニュースなど送付する際に、あわせて送付した。

近日中地域の医療機関への情報誌に紹介する予定がある。

広報誌と一緒に「しおり」および「ガイド」をがん診療連携病院に送付した。

## 2) 薬局

### 講演会、研修会等で配布 [12]

連絡会のときに紹介し、配布した。

薬剤師との連携勉強会にて、配布した。

緩和ケアチームセミナーや地域向けの研修会で配布。

講演会で「患者さんのしおり」、概要版を配布し、案内を行った。

二次医療圏内の薬剤師会に「しおり」、「ちらし」を概要案内を添えて配布、薬剤師会から各薬局へ案内してもらった。

### 近隣の薬局へ紹介、配布 [11]

麻薬取り扱い薬局へチラシを配布予定。

5月中旬に県内の全薬局へ患者必携のチラシと地域療養情報を発送予定。

県内薬剤師会へ見本・ポスター・しおりを送付し、薬局等への周知を依頼。

薬剤師会薬局を訪問し、直接ちらし、しおり、見本版を持参し、活用について説明。配布・普及への協力を依頼した。

### 3) 地域の保健・福祉機関

#### 行政機関(保健所等)紹介・配布 [34]

市保健福祉課に見本版を送った。

二次医療圏内の保健所、居宅介護支援事業所に「見本版」を配布。

保健師等来院時に「患者必携」(見本版)および「しおり」を配布している。

県庁と連携し、保健所への配送を依頼した。来院した地域包括支援センターに内容を説明し配布した。

地域包括支援センター、保健センターに見本版および患者さんのしおりを配布。

医療福祉連携機関対象の症例検討会の参加機関に、院内保有の見本残部とチラシの配布を行った。年度はじめに相談支援センターのちらし、ポスター配布を毎年度行ってきたが、本年度はその送付に同封し、患者必携のちらしを同封し、送付した。

#### 地域連携等の会議、講演会において紹介・配布 [24]

地域ケアミーティングで紹介。

連絡会のときに紹介し、配布した。

行政機関との定期的な協議会の際に配布した

地域連携室の会議に出席された施設に配布した。

緩和ケアチームセミナーや地域向けの研修会で配布。

地域連携をしている保健・福祉機関に問いかけ、希望があれば渡している。

#### 訪問看護との連携 [12]

保健所、地域包括支援センターに配布、訪問看護ステーションに配布。

近隣の訪問看護ステーションに添付文書とともに送付した。(冊子、しおり等)

訪問看護ステーション協会へ見本版を届けた。介護支援専門員協会に見本版を届けた。

訪問看護ステーションのいくつかは患者必携(見本)を渡し、必要な患者への情報提供を依頼した。居宅介護支援事業所に患者必携(見本)を渡し、患者さんへの案内やスタッフの活用に使っていただくよう紹介した。

### 4) 市区町村

#### 市区町村担当部署へ紹介・配布 [25]

健康増進課の相談員にも配っている。

県内市町村77にセットで配布予定(連休あけ)。

二次医療圏内の保健所に、見本版を送付し参考にもらった。

二次医療圏内の各市町村地域包括センターに「見本版」を配布。

#### コミュニティセンター・図書館等の公共施設に紹介・配布 [3]

コミュニティセンターに配布。

市図書館、分館へ各1冊ずつ配布。

今後、健康教室実施時に公民館等へ配布予定。

### 5) その他

#### 地域連携担当者・施設へ紹介・配布 [13]

がん患者さんの担当ケアマネにサービス担当者会議で紹介した。

老人保健施設、特別養護老人ホームへ案内し、職員用として配布した。

市内各自治会へチラシを配布した。沖縄県医療ソーシャルワーカー協会会員へチラシを配布した。

訪問看護ステーションへ配布して、患者・家族への対応に活用していただけるようお願いしている。

#### 講演会等において紹介・配布 [10]

民間保険会社での研修会にて紹介した。

当院主催の市民公開講座でチラシを配布予定。

6月にタウンミーティングにて一般向けの講演会を開催予定。

院内のがん診療支援委員会主催講演会において、患者必携の必要部分をコピーし、資料として説明した。周知というより案内をした。

#### 公共施設に紹介・配布 [5]

公民館に1カ所(希望があったので)。

県庁に配布し、健康コーナーに掲示してもらった。

公共図書館に閲覧用に見本版および患者さんのしおりを配布。

#### 患者会へ紹介・チラシ配布 [4]

患者会代表者に配布。

区運営の患者会に患者用チラシ配布。

#### 医療職養成校に紹介・配布 [2]

実習に来ている看護学校へ参考図書として渡した。内容が分かりやすく好評でした。

#### メディアに紹介・配布 [1]

中日新聞、朝日新聞、読売新聞およびNHKに患者必携を送付した。

問6: 今後の患者必携の普及・活用に向けたご要望などをお伺いします。

6-1 院内や地域において、また、医療関係者や患者・家族、市民の方々に患者必携を普及する取り組みの中で、工夫されていることがありましたら、ぜひ教えてください。また困難と感じていることがありましたら、それについても教えてください。

## 工夫点

### 院内で広く紹介 [19]

がん患者カウンセリング料算定の際に同席する看護師に、紹介や説明をしていただいています。

患者図書室で閲覧できることを各職員に周知してもらい、患者図書室の利用を患者に勧めてもらっている。

今後、地域の医療機関へは、当院より定期的に配布する広報誌を合わせて、お知らせする方法を考えています。

当院が連携医療機関宛てに作成している「病院だより」にお知らせとして紹介。配布希望医療機関には郵送可能と記載。

一般市民を対象としたがんに関するセミナーにおいて、相談支援センターの紹介に併せて各種パンフレットとともに案内をした。

ポスターとちらしを外来、入院、お見舞いの方を含む動線に掲示し、患者・家族・地域住民の目に届きやすいように工夫した。

「緩和ケア教室」(患者・家族を対象)を開催しています(1シリーズ終了)ので、その場を活用して、普及に努めていきたいと思っています。

外來でのがん告知が多いため、外來の医師や看護師が「しおり」を紹介し、がん患者サロンやがん相談に立ち寄れるような流れができるとよい。がん相談担当者は、「患者必携」の内容を理解し、相談や指導に活用できるとよい。また、療養手帳の活用も進めていけるとよい。

### 手に取りやすい方法を工夫 [19]

当病院周辺の各書店に確認したところ、『患者必携 がんになったら手にとるガイド』は常備されていなく、その都度の取り寄せになるとの回答であった。患者さんが手軽に購入できるように当院売店に常備として置いた。

相談支援の中で、患者必携の記述を紹介しながら説明。相談員の相談の質が担保される。院内の売店に並ぶと普及に貢献すると思う。

がん図書コーナーで見本版を貸し出し可能として数冊設置。

書店でどこ売っているか近くを調べ案内している。

患者さんへスムーズに配布できるように、マニュアル作成や配布のためのツールを作成した。

### 病診連携等での紹介 [13]

近隣の医療機関に対して、患者様を含めて情報を共有するため、がん診療連携パスの運用開始と併せてガイドを配布したい。

二次医療圏内の地域がん診療連携拠点病院、大学病院と連携し、地域の医療機関、医師会等へ郵送し配布した。

二次医療圏内の訪問看護ステーション所長会議へ連絡し、しおりを全ステーションに郵送手配。

がん診療連携拠点病院への送付も大変だと思いますが、医師会での広報や普及もより地域の患者さんにとっては、身近になると思いますので、医師会への送付も検討中です。

院内は各病棟、外來に配布し患者・家族、看護師への周知が容易であるが、医師や看護師以外のコメディカルへの普及が困難である。地域に対しては、地域連携協議会時に参加された医療機関の医師に配布した。

### 講演会等の催しで紹介 [12]

患者さんや家族向けの講演会等で前座でDVD等で宣伝できれば良いのではないかと思います。

今回、がんについて話をしたいと、公民館での出前講座を依頼された。このような機会を増やしていくことが必要だと思う。

本年度計画されている緩和ケアセミナーや市民公開講座などの機会に、ちらし、しおり、見本版のセットおき、広報できるようします。院内でも、がんに関係した勉強会、講演会の際には、しおり、チラシを置きたいと思っています。

地域の患者・家族、市民の方々や医療福祉関係者への患者必携の普及・活用について今後取り組んでいきたいと思っています。具体的な取り組みとしては、年に1回当院の緩和ケアチームが主体となって市民公開講座を開催しておりますが、次回開催時に患者必携を紹介する予定です。

### 院内医療職の普及展開 [6]

活用例を館内一斉メールにて送信するなどが必要かと検討中である。

院内での多職種カンファレンス、協議会の場でのアナウンス、講演活動でのアナウンス、新採用看護職員へのアナウンス、専門、認定看護師への見本版配布

いかに医療者を巻き込むかが課題であると考えていますが、当院では、医局会や管理診療会議で情報提供したり、各診察室に配置したり等、医療者の目に入るよう心掛けました。

当院は大学院であるため、教育機関としての性質上、医学部、看護学部、リハ学科、事務関係の学生や関連する教員が在籍している。そのため、患者家族だけでなく、今後医療・保健・福祉を担う多くの学生や、その教育関係者にも閲覧していただけるよう配布している。

がん患者のサポート体制が院内全体で取り組まれシステム化されています。また、地域との連携も充実されるよう関連部署間のカンファレンスの場も設けています。がん患者様にとって必要な情報への理解を深めることで、より患者様の意向にそった関わりができるのではないかと考えます。

相談員はがん対策情報センターの動画も見ておすすめ方をイメージ化した。

### 患者会・ピアサポートでの利用 [2]

がん患者会が3月4月と活動休止中だったので、これから患者会などへの広報をしていきたい。

がん患者相談の場で積極的に活用する他、当院では昨年10月から毎週木曜日に、がん患者ピアカウンセリングを行っており、その場でも案内したいと考えている。

### その他 [2]

現状、まだ地域に向けての取り組みにつきましては院内で検討中です。今後具体的に動いていく方向です。申し訳ございません。

医療連携の役割もあるので、現在は、がんパスである「東京医療連携手帳」の説明を患者さんや家族にする機会があります。そこで今後の治療計画は手帳で説明し、療養生活については「患者必携」の本を紹介することもあります。治療と療養の両方の説明のよい機会になるのではないかと取り組み始めたところではあります。

## 困難なこと

### 患者への周知の困難 [42]

相談窓口に見本・概要版を手に取りやすく、目につく場所に設置しているが、相談者がそれらを積極的に手にとって見ている姿はあまりみかけず、質問もほとんどない。情報を得るために相談に来られた方へは、患者必携の紹介や概要版を薦めることもあるが、そうではない目的(特に精神的な面での相談の場合)での相談者への提示が難しい。

疾患ごとのページやわたしの療養手帳は必要でない方もかなりいらっしゃるため、購入は勧めにくいです。

ちらし・しおり・見本と一緒にインフォメーションコーナーに置いたところ、本を回転していると捉えられ、置き場所に苦慮した。

困難な点は具体的相談活動の中でどう活用するか冊子へつなげるタイミングが難しい。

書籍の購入については、ネット販売が中心。静岡県内でも取り扱っている書店は20か所ということで、リストをもらいました。インターネットが使用できない方には購入が難しいようです。

必要な人に活用していただきたいと思いますが、何でももらえるものはもらうという考えの方が多いように思います。

### 患者必携事務局より

・患者必携のPDFファイルは引き続き無償でダウンロード、印刷していただくことができます。必ずしも書籍一冊の購入を促すことを目的としてはおりませんので、患者さんの相談の内容によって必要な部分を印刷したり、一部をご紹介いただくなどご活用ください。

・患者必携は、「患者と医療者の対話のなかで活用される、コミュニケーションツール」として作成されています。個別の病気、治療法などについては、相談支援センターを活用するなど、情報の探し方をお示しすることとどめています。相談内容に応じて一部をご紹介するなど、ご活用ください。

・がんの冊子やがん情報サービスとともに、診療や相談支援の現場などで広くご活用いただくために、引き続き普及に向けた取り組みを行ってまいります。

また、書店や院内売店での取扱いについては、出版社に直接お問い合わせください。

発行：株式会社 学研メディカル秀潤社 東京都品川区西五反田2-11-8

TEL:03-6431-1234/FAX 03-6431-1790 <http://gakken-mesh.co.jp/>

### 院内周知の困難 [21]

院内における周知の度合いがはかりきれない(尺度がない)ということがあり、今後の課題です。

以前、地域の関係機関へ資料を配布した際に、各拠点病院からの発送となったため、受け取り側に混乱が生じたケースがあり、今回は共通の案内文書を作成し、添付したうえで発送することとなりました。資料配布にあたって趣旨や目的が明記された文書様式を頂けると周知の際に有難く思います。

今回、病院として配布計画を立て、配布を済ませた後で、近隣のがん診療連携拠点病院から、各々がどういった配布をして地域をカバーしていくか考えたいという相談が入り、そこに協力できなくなってしまった。事前に県や地域で 配布計画を相談できていたら、分担ができてよかったと反省した。

当院が改装工事中ということもあり、保存場所(置き場所)の確保が大変だった。院外の関係者、関係機関にどこまで配布、普及活動すべきか迷った。

医療従事者研修会、緩和ケア研修会に出席した医療関係者に見本版を配布できたらよいと考えているが、今、外来の改修工事をしている、保管場所がないため、送ってもらうことができない。しおりで対応したいと思う。

一部患者団体を通じて広報普及を図っているが、院内に対する周知、取り組みがまだ十分ではない。

本の中身は非常によいと思うが、一人一人の個性のある相談の中で本の宣伝を中心にしたくはないので、結局置いてあるものに興味を持った方が見る程度。外来診療の中で本を勧めることはなお難しいと思う。

日々の業務の中での作業となるため、関係機関への周知が遅れがちとなってしまいます。

困難だった点→当院では、医師より患者さんへ配布をする予定だが、「医師への負担が大きい」等、診療に要する時間の問題が課題に挙がった。

医師から説明・配布してもらおうことを原則としているが、理解が得られにくい。

患者さんが、必要としているものがあるいは興味を持っている情報なのかわからないため、積極的に医療従事者に勧められない。

### 患者必携事務局より

・今回のアンケート調査で全国のがん診療連携拠点病院の皆さまからお寄せいただいた活用方法や普及に向けた取り組みを院内、連携医療機関、地域などに分けてまとめさせていただきました。皆さまの参考としてご活用いただけましたら幸いです。また、今後とも医療関係者に向けた普及・促進、診療や連携、相談支援の現場でより使いやすくなるための内容や提供方法の改善に向けた取り組みも進めてまいります。

### 地域周知の困難 [14]

医療機関(地域がん診療連携拠点病院)だけでの普及活動には限界を感じる。

がん拠点病院以外の医療機関とは、この冊子の普及に対する考えに温度差を感じます。

見本版を地域の医療福祉機関へ配布するにあたり、どのような基準で配布する施設を決定すればよいか苦慮している。

拠点病院から多くの患者さんの目に止まるようにするには限界がある。市の広報、保健所の広報、医師会をととして案内をすることも必要と思う。

冊子を郵送する際、郵送料の負担が大きくなりました。他の医療機関は郵送費用をどのように捻出しているのか、また配布方法を工夫しているのか教えていただくと助かります。

問4にも地域の保健・福祉機関や市町村への取り組みの項目がありましたが、一病院で取り組むには無理があると思います。他の地域で取り組んでいる事例があれば参考にしたいと思えます。

今年度の行事の中に 患者家族に向けて公開講座を予定しています。その際、普及への取り組みや活用を深める活動ができればと考えています。拠点病院と言え、公立とは違い 片田舎の病院では広報力に差があります。市民の方々への広報はなかなか難しさを感じます。

地域医療機関への周知においては、拠点病院で話し合ったが、各拠点病院がん相談支援センターの判断となった。相談支援センターだけで判断するのが難しかった。アンケート内にある薬局・保健福祉機関・市町村への配布は、考えてもいなかった。各拠点病院のがん相談支援センターがどこまで取り組めばいいか、考えさせられた。各都道府県は、患者必携に関してどのような役割を果たされているのか。

患者必携を地域の病院に送付しましたが、同じ圏域の拠点病院で送付先が重ならないように分担しなければならない点、また見本版1冊ずつ、しおりおよびちらしを10~20部ずつに分ける手間や送料が大変でした。(特に年度末だったので…)

しかし普及活動自体はよいことだと思います。

### 患者必携事務局より

・今回のアンケート調査で全国のがん診療連携拠点病院の皆さまからお寄せいただいた活用方法や普及に向けた取り組みを院内、連携医療機関、地域などに分けてまとめさせていただきました。皆さまの参考としてご活用いただけましたら幸いです。

・地域における活用事例や連携の場での活用など、今回いただいたご意見をもとに、さらなる充実に向けて検討してまいります。

・地域の保健・医療福祉施設との連携や情報共有の事例については今回の調査を含めてさまざまな取り組みについてご意見、ご提案を頂いているところです。地域や職種団体ごとの勉強会・研修などでご案内する機会など、幅広くご提案いただければありがたく存じます。

## 6-2 患者必携の活用・普及に関して、国立がん研究センターがん対策情報センターへのご意見やご要望等をご記入ください。

### ○具体的活用方法情報提供への期待

- ・臨床現場での活用現場、配布方法、他施設・他地域での取り組みなど、活用事例を紹介してほしい。

#### 患者必携事務局より

- ・今回のアンケート調査で全国のがん診療連携拠点病院の皆さまからお寄せいただいた活用方法や普及に向けた取り組みを院内、連携医療機関、地域などに分けてまとめさせていただきました。皆さまの参考としてご活用いただけましたら幸いです。また、診療や連携、相談支援の現場でより使いやすくなるための内容や提供方法の改善に向けた取り組みも進めてまいります。

### ○地域連携に向けて

- ・行政等への普及は国立がん研究センターがん対策情報センターや都道府県等が主導するのがよい。
- ・地域における医療機関・福祉施設、薬局、クリニック等への見本、しおり等の配布場所について、事前の調整ができるとよかった。
- ・詳しい知識をもつがん患者さん向けには内容がもの足りない。少し読むには分厚すぎる。
- ・地域への普及が足りないと考えている。拠点病院で追加希望の対応は可能か。

#### 患者必携事務局より

- ・がん情報普及に向けた連携について、ご指摘ありがとうございます。地域における活用事例や連携の場での活用など、今回頂いたご意見をもとに、さらなる充実に向けて検討してまいります。
- ・患者必携は、「患者と医療者の対話のなかで活用される、コミュニケーションツール」として作成されています。個別の病気、治療法などについては、相談支援センターを活用するなど、情報の探し方をお示しすることにとどめています。相談内容に応じて一部をご紹介しますなど、ご活用ください。
- ・今後の追加配布につきましても、情報を必要とする方に届けるべく2011年7月現在調整しています。

### ○具体的計画について等の事前提示

- ・周知や配布に必要な予算や遂行計画を立てるために、患者必携の配布時期、部数、配布先など、事前に示されるとよかった。
- ・活用方法や送付数について、事前に情報提供していただきたい。
- ・一度に大量に送るのではなく、必要な時に必要な部数が手に入るようにできないか。

#### 患者必携事務局より

- ・見本版送付に先立ち、1月中旬に部数と配布先について施設長殿宛ておよび相談支援センターご担当者様宛てに、情報提供させていただきましたが、活用方法や地域での配布・周知への取り組みについては、例示にとどめております。アンケートやヒアリングなどでいただいた活用事例や普及に向けた取り組みなど、引き続き情報提供させていただきます。
- ・送付部数については、これまでの冊子の活用状況、院内での医療者の方々、地域の連携施設の方に広く閲覧いただける部数を設定させていただきました。追加送付のご要望への対応や、活用事例のご紹介など、情報を広くご活用いただくために取り組んでまいります。

### ○普及・促進への提案

- ・テレビや新聞などで取り上げると効果的。
- ・普及に向けた講演会や、動画配信するなど、活用例を紹介するとよい。
- ・病院の売店で購入できるようにしてほしい。

#### 患者必携事務局より

- ・ご提案ありがとうございます。マスメディア、地域の情報媒体、講演会、研修会など、さまざまな機会で、具体的な活用事例や各地域の取り組みとともにご紹介いただけるように、普及に向けて取り組んでまいります。
- ・地域メディア（地方新聞、地元CATV、民放テレビ局各社など）の取材依頼にも可能な限り対応させていただきますので、ご相談ください。
- ・がん情報サービスでは、患者必携の活用支援のための動画を掲載しています。ぜひご活用ください。

### ○ツールに関してのご要望

- ・ツールの必要部数を事前に問い合わせしてほしい。
- ・ポスターのサイズを大きく／小さくしてほしい。
- ・ちらしを入れるポケットを付けると掲示できないので、ポケットのないポスターがあるとよい。

#### 患者必携事務局より

- ・ツールの必要部数は、院内、相談支援センターで広くご紹介いただき、患者必携について認知の機会を広くいただくように設定させていただきました。また、ポスターについてはがん情報サービスに、ちらしとともにPDFファイルとして掲載しており、縮小／拡大印刷することで他のサイズで印刷することができます。また、ポケットのないポスターのPDFファイルもご利用いただけますのでご活用ください。

患者必携のご案内（ちらし、ポスター、動画）

[http://ganjoho.jp/hospital/consultation/info\\_hikkei.html](http://ganjoho.jp/hospital/consultation/info_hikkei.html)

また、まとまった部数のご希望がありましたら事務局までお問い合わせください。

### ○その他

- ・本としては厚い・重いのでは、分冊にしてはどうか。
- ・書店や院内売店に置いていないので、購入希望者が入手できない。
- ・スタッフや患者さんに、わかりやすい冊子と好評である。
- ・がんの冊子は希望者が多く活用範囲が広いので、今後も冊子を希望したい。

#### 患者必携事務局より

- ・完成版としてPDFファイルを公開後も、本として入手したい、活用したご意見を踏まえ、入手しやすい価格と流通面の検討を行い、一冊にまとめた形態となっております。また、書店や院内売店での取扱いについては、出版社に直接お問い合わせください。

発行：株式会社 学研メディカル秀潤社 東京都品川区西五反田2-11-8

TEL:03-6431-1234/FAX 03-6431-1790 <http://gakken-mesh.co.jp/>

- ・患者必携のPDFファイルは引き続き無償でダウンロード、印刷していただくことができます。相談の内容によって必要な部分を印刷したり、一部をご紹介しますなど、ご活用ください。

- ・がんの冊子やがん情報サービスとともに、診療や相談支援の現場などで広くご活用いただくために、引き続き普及に向けた取り組みを行ってまいります。

